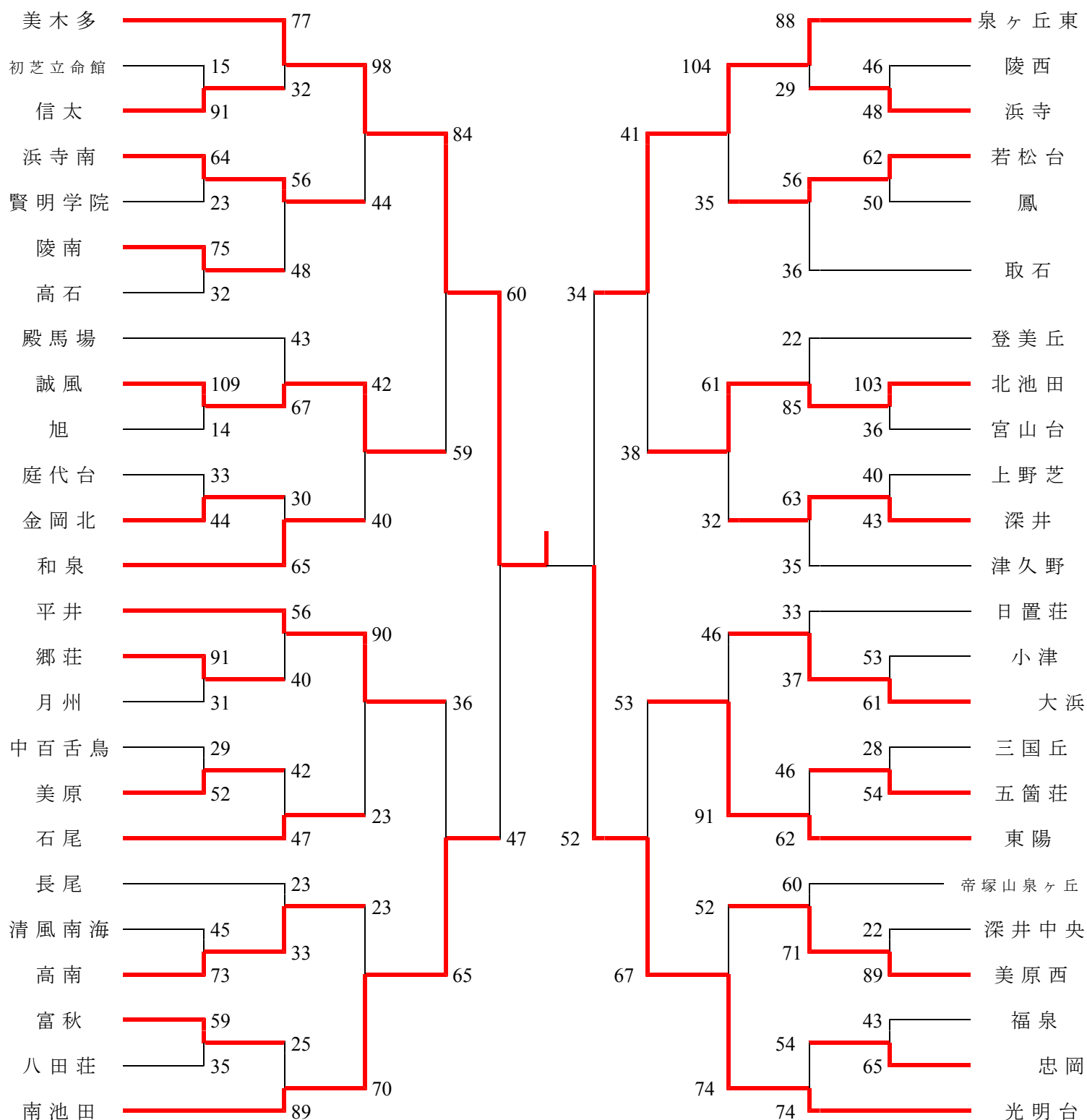


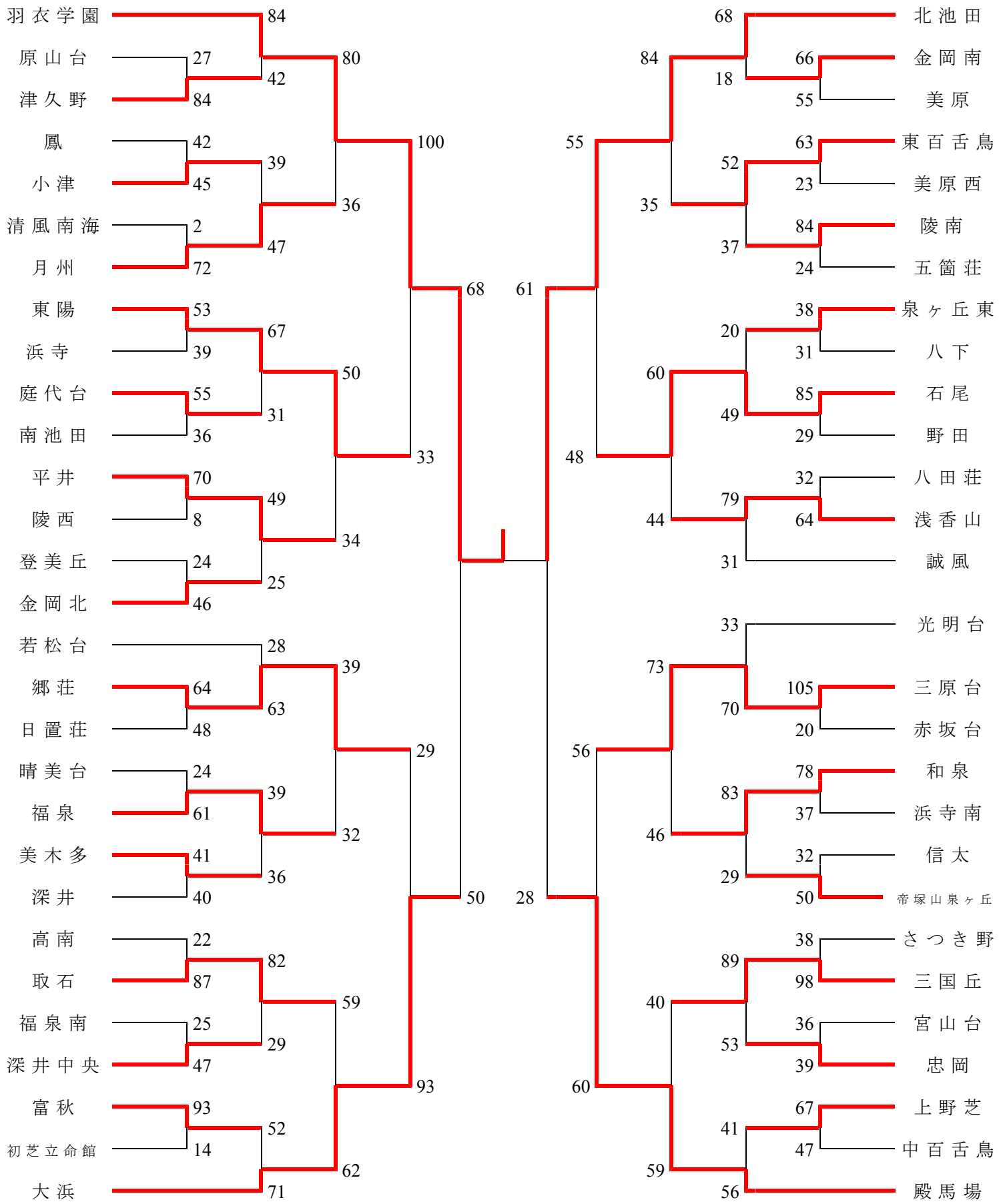
2013年度 泉北地区新人大会

男子の部



美木多	67	決勝	40	光明台
	14	1Q	11	
	20	2Q	6	
	15	3Q	15	
	18	4Q	8	

女子の部



羽衣学園	86	—	41	北池田
	17	1Q	17	
	12	2Q	12	
	28	3Q	6	
	29	4Q	6	

男子決勝戦評

美木多4, 5, 6, 7, 11, 光明台4, 5, 6, 7, 9 でスタート。

1クォーター 美木多は4, 7の1on1、ハーフコートDfトラップできっかけをつくろうとする。対して光明台は美木多4へのフェイスガード、4の1on1、1on1から外のショットできっかけをつくろうとする。お互いにけん制し合って美木多14 - 11光明台で終わる。

2クォーター 美木多が11のミスマッチを生かし、得点をあげる。4の1on1と7の1on1が決まり出すと同時に流れにのり、ターンオーバーからランジションでも得点を重ねる。逆に光明台は4の1on1へのシャットザゲートをやぶりきることができず流れにのれない。Dfでは、2-3ハーフゾーンで流れをつくろうとするも、ランジションが出ず、1on1でも決めきることができず、美木多34-17光明台で前半を終える。

3クォーター 美木多は、光明台の1-2-2ゾーンに攻めあぐむ場面もあったが、Dfリバウンドからの速攻と7→11への合わせで得点を重ねていった。きっかけがほしい光明台は、4のペネトレイトから7の外の合わせで2本3Pを決め、流れをつかみかけたがリバウンドがとれず、リズムにのりきれない。美木多49-32光明台で終わる。

4クォーター 光明台は4の1on1から7への合わせで外のショットにこだわったが、依然として流れはつかめないままている。対して美木多は7→11のイメージが強く、そのおかげで7の1on1が生きてくる。Dfリバウンドをつかみ、ランジションで得点を重ね、1on1のフィニッシュの確率も高く、さらに得点を重ねた。最後は引き出しの多かった美木多が67 - 40と光明台を引き離し、勝利を収めた。

(日美, 西口貴)

女子決勝戦評

羽衣学園5, 6, 8, 9, 10, 北池田4, 5, 6, 7, 9 お互いオールコートマンツースタート。立ち上がり、羽衣は厳しいDFから北池田のミス誘い、ターンオーバーから得点を重ねる。北池田はハイポストにボールを集め、インサイドアウトからの3Pをねらう。4番の3Pが入り始め、徐々に流れをつかんでいく。開始5分、羽衣は北池田の24秒オーバータイムをとって流れをつかみかけたがその後、オフenseチャージングをとられ、流れをつかみきれない。対して北池田も厳しいDFからのターンオーバーでアンスポを得るが、フリースローが2本とも入らず、互いに膠着状態が続き、17-17で1Q終了。

互いにスタートは変わらず、北池田は速い展開からの6番のドライブや、4番のレイアップでペースをつかみかけるが、羽衣は9番がオフenseリバウンドを激しく奪い、そこから5番の3Pが決まり、流れを渡さない。北池田のアウトサイドがなかなか決まらない中、羽衣は9番がペイントエリア内で活躍をみせ、得点を重ねていく。対する北池田はDFで羽衣のミス誘い、速攻につなげていく。9番の3P、4番のドライブでつめより、逆転に成功する。2Q終了間際、羽衣の8番がファールをもらうがフリースローが1本しか決まらず、29-29で前半終了。

羽衣は、厳しいDFから北池田のミス誘い、ターンオーバーやオフenseリバウンドを得て、ゴール下のシュートから得点を重ねる。北池田は様々なカッティングからチャンスをねらうが、リバウンドやルーズボールがとれず、羽衣のペースになっていく。羽衣は9番のポストアップやリバウンドから終始ペースを崩さず57-35で3Q終了。

4Qに入っても羽衣ペースは続き、DFリバウンドやルーズボールからの速攻、7番のペネトレイトや9番の3Pが決まり、開始4分で30点の差をつける。対する北池田は4番や9番の3Pでの巻き返しを図るが、羽衣は落ち着いて速攻やアウトサイドシュートを決め、86 - 41で羽衣が勝利した。

(福渡, 辻野)